

令和3年度 山形県立長井工業高等学校 学校評価書 (自己評価・学校関係者評価)

教育目標 (目指す生徒像)	(1)「人間性の育成」 責任感と協調性を重んじ、礼儀正しく思いやりのある、心身共に健康な人間の育成
	(2)「創造性の育成」 確かな学力を身に付け、創造性豊かで実践力のある、たくましい人間の育成
	(3)「社会性の育成」 ものづくりと、地域と連携した活動を通して、社会に貢献できる人間の育成

本県基本目標：人間力に満ちあふれ、山形の未来をひらく人づくり
 本県教育のテーマ：つなぐ ～いのち、学び、地域～
 目指す人間像：「いのち」をつなぐ人 学びを生かす人 地域をつくる人
 広い視野と高い志を持って(全体を貫く基本姿勢)

【達成度】 A:十分達成できた B:ある程度達成できた C:あまり達成できていない D:まったく達成できていない

自己評価				学校関係者評価	総括		
番号	重点目標	評価基準	目標の達成状況、達成にむけた取組み状況と分析	達成度	成果と課題、次年度に向けた改善策	意見・要望・評価等	
1	社会を生き抜く確かな学力の育成	学習指導	① わかる授業、考える授業、協働的な授業、ICTを活用した授業の推進	B	一定の成果は見られたが、生徒・教員双方のICTリテラシーにはまだ個人差が見られ、今後も継続して実施していく必要がある。コロナ禍におけるオンライン授業の実施については近々の課題となっている。 次年度から2年間は現行の教育課程と新教育課程とが同時進行になるため、教員側が混乱しないよう注意が必要。指導と評価の一体化を具現するために、今後も各教科で入念に準備を進めていく。 新学習指導要領に基づいた教科書はまだ出そろっていないが、順次研修を深め、効果的な授業を実践できるよう各教科でシラバスの作成を進めていく。	・生徒による学校評価アンケートについて深掘りが必要では。本学では各教科の評価を行い、その結果をもとに教科担当者会を実施して改善計画を提出し、改善に努めている。 ・このコロナ禍の影響で長井市内の飲食業等では打撃を受けているが、工業系の業種はコロナ明けに備えて設備投資をしている企業もある。そのため、人材を求めており、しっかり挨拶等ができる人が欲しい。今後の厳しい状況を踏まえて、学校でスキルを学び、身に付けて社会に出て欲しい。 ・コロナ禍でも学校活動に取り組んでいて、出席率も高く頑張っている様子が伺える。その一方で、修学旅行が中止になったことは残念であった。別の機会でもいので、仲間と寝食を共にするような機会を設けて欲しい。 ・このコロナ禍の状況のため集まる機会も無くなり、保護者との交流の場も減っている。互いに連携していく必要がある。 ・部活動の在り方について、生徒数が減っている現状では単独での活動が難しくなってきた。今後は他校との連携も大切にしていかなければならない。	
			② 新教育課程の趣旨を生かした評価方法の確立				来年度からの新教育課程に備え研究授業週間を2回設け、Google for Educationや普通教室への大型プロジェクト、Chromebookの導入を受け、ICTに関する研修会を2回実施した。 指導と評価の一体化について、各教科で研修を進めてもらっている。観点別評価(3観点)と評定(5段階)との関係性については、学校全体での共通理解を図っている。
			③ 「新学習指導要領」令和4年度実施に向けた教育課程の完成と「シラバス」作成				本校の新教育課程については無事に県の認可が下り、3学科名を「機械科」、「電子科」、「福祉環境科」と改める運びとなった。「シラバス」の作成は、各教科に進めてもらった。
2	社会で自立できる基礎的な力と実践力の育成	生徒指導 特別活動 進路指導	① 基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上(SNSの使い方、身だしなみを含むルール・マナー・モラルの涵養)	B	校外外におけるスマートフォンの使用方法についてルールを決め、職員の共通理解で生徒指導に当たる。一部の女子生徒のスカート及び化粧等の指導が課題である。 生徒数の減少に伴い、部活動の降格、廃止はやむを得ない状況である。生徒会活動や、資格取得に向けた学習時間の両立が課題となる。部活動全員加入の検討が必要に思われる。 就職も進学も概ね順調に内定を頂くことができたが、不採用や不合格も複数あり、改めて生徒の実力、地力を高めていく工夫が必要であることを痛感した。特に公務員試験突破は2名にとどまり課題を残した。試験や面接のオンライン化が進み、校内の環境整備が急務である。		
			② 学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動、部活動、各種コンテスト等への積極的な参加(県大会ベスト8以上を目指す)			スマートフォンは始業時から終了時まで使用しないこととし、学校預かりが定着している。しかし、SNSに書き込みする生徒がいた。パーカー着用の男子生徒、茶髪等傾向であるものの継続した指導を行う。 生徒会と各種委員会が中心となり、スポーツフェスティバル及び長工祭が不成功だった。ものづくりコンテスト旋盤作業部門において県大会優勝、東北大会では惜しくも準優勝。来年度に期待したい。	
			③ キャリア教育とガイダンス、個別指導の充実(望ましい進路選択と志望実現100%)			コロナ禍が続く中での進路選択となったが、就職は製造業を中心に求人数が増加し、3学年や各科と連携をとりながら就職試験に向かうことができた。進学は希望者に外部模試を取り入れたり、進学講習を工夫したりしながら実力の養成をはかり、推薦入試に臨むことができた。(進路内定率100%達成)	
3	安心・安全で元気な学校づくり	いじめ防止 保健衛生 安全指導	① いじめ防止に向けた計画的・組織的な取組みの実施(講話、アンケートの実施と継続した指導の実施)	B	いじめの側の幼稚さが目立つ内容だった。いじめの概念をもう一度教える指導が必要である。また、器物破損が見られた。公共のものとして大事に使用することを理解させる。 引き続き、国や県のガイドラインに従い、校内連携した新型コロナウイルス感染症防止対策を進めていく。 生徒の取り組み状況は良好であるが、各地で実際に災害が起きている状況下であることを意識させることが課題である。今後も西置賜行政組合消防本部の協力を得ながら、安全教育を含めた訓練の継続が必要である。		
			② 心身の健康の保持増進(出席率99%以上、新型コロナウイルス感染症防止対策の継続)			いじめに関するアンケートを2回実施した。いじめはなかったとの回答であったが、その前後に集団いじめが2件発覚し指導を行った。継続した指導が必要。 新型コロナウイルス感染症関連の欠席者(出席停止)が多く出現する状況下、それに当たらない体調不良者や欠席者も増加した。学校生活や学習活動等への意識の希薄化も懸念される。	
			③ 自他の「いのち」を守る安全教育の推進(交通事故0件、適切な訓練の実施)			火災を想定した訓練と地震を想定した避難訓練を行った。その中で水害等自然災害を想定した安全教室を実施した。また、今年初めての取組みとして、洪水時の避難場所であるケミコン山形体育館までの移動経路確認を行った。	
4	地域に貢献し信頼される学校づくり	地域連携 情報公開	① 地域と連携した生徒育成と郷土愛を育む教育の推進(全校ボランティア活動、キャンパス制交流事業、部活動単位でのボランティア活動、PTAとの連携等)	B	雨天のため、あやめ公園の清掃活動はできなかったが、あやめ公園駅において「Let's Lock 花プロジェクト」は地域の方々との連携し実施できた。荒砥駅近くの車両基地で列車の清掃活動を行った。 6月に2学年生徒全員に対し地元企業約30社の協力により、3日間のインターンシップを実施し、職業選択能力や職業意識を向上させることができた。1月には長井市の協力を得て、長井市民文化会館において全校課題研究発表会を実施し、日頃の本校の取り組みを外部に発信する機会となった。 新教育課程の実施に向け、ホームページをリニューアルした。学校行事等の機会を捉え、タイムリーに情報をアップできた。山形新聞には複数回本校の記事を掲載していただき、効果的に情報発信することができた。		
			② 地元企業、長井市等との連携、交流(インターンシップのほか、市等が主催するイベントへの協力等)			雨天時の対応として校内清掃、おもに実習室の清掃ができて好評だった。 今後とも地域の各種団体より、本校の活動に理解と協力を得、また各種事業に対しご意見をいただきながら進めていく。	
			③ 積極的な情報提供と情報発信(ホームページ更新月2回以上、市の広報等の活用)			今後も様々な機会を捉えホームページの更新、リニューアルを図っていく。コロナ禍のために保護者や地域の方々との接する機会が激減しているため、ホームページ等を積極的に活用しながら情報発信に努める必要がある。	